第十一講・説明的文章⑤

◆主題・要旨をとらえる

文章を読む大きな目的は、主題を読み取ることにあります。何かについて説明した文章では、説明の中心的内容を、筆者の考えをのべた文章では、考えの中心的内容を、とらえることになります。

(1) 段落の内容をかくにんする。

全体の主題・要旨をとらえるためには、各部分での要点をとらえることが欠かせません。特に意味段落の内容はしっかり理解しておきましょう。

(2) 文章の組み立てをかくにんする。

文章の組み立てを明らかにすることによって、筆者が特にどの段落の内容をのべたいのかがわかります。

説明文は、次のような型にあてはまることが多いので、覚えておくと便利です。（序論＝話題をしめす、本論＝説明、結論＝言いたいこと）

① 序論—本論—結論

② 結論—本論

③ 結論—本論—結論

(3) 文章全体の主題・要旨をとらえる。

(1)・(2)に加え、文章全体のキーワード（しばしば出てくる重要なことば）や文章の題名を参考に主題・要旨をとらえます。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

9世紀のはじめころ、北ヨーロッパのフランク王国（いまのフランス地方）には、つぎのような法律がありました。「貴族や僧院*1では、女たちがヒツジの毛をつむいだり、おりものを作るのに必要なものをたくわえておくこと」というのです。そして、①そのなかに、せっけんもはいっていました。このころのせんたくは、むかしながらの木灰*2のしるを使い、貴重品であるせっけんは、もっぱら羊毛をあらうのに使われていたのです。フランク王国で作られたせっけんは、木灰と動物のあぶらを原料とした、②軟せっけんとよばれるやわらかいもので、いやなにおいがしました。

一方、南ヨーロッパのイタリアやスペインなどでは、8世紀ごろから、すでにせっけん職人の組合がつくられていました。そして、ローマ時代からのせっけん作りの技術に、アラビア人の技術をくわえ、質のよいせっけんを作りはじめていたのです。

これらの国ぐにでは、特産のオリーブの実からとれるあぶらと、海草を焼いた灰からせっけんを作りました。このせっけんは、③硬せっけんとよばれるかたいせっけんで、あつかいやすく、しかも、動物のあぶらを原料にしたせっけんとちがい、いやなにおいがありませんでした。さらに、12世紀ごろからは、各地でせっけん作りがさかんになり、香料を入れたいいにおいのものまで作られ、ほうぼうの国に輸出されました。このような高級なせっけんは、おもに、貴族などのけしょうに使われたのでしょう。

16世紀になると、おりものがさかんになり、その仕上げに使われるせっけんは、ますますさかんに作られるようになりました。

このころになると、せっけんは、地方による特色がうすれ、④原料のアルカリ*3とあぶらが手に入るところなら、どこでもせっけんが作られるようになりました。こうして作られるせっけんは、色やにおいもいろいろです。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

　この時代のせっけんの作りかたは、つぎのようなものでした。まず、生石灰(せいせっかい)という石の粉と、灰をまぜたものに水をくわえ、あくをとります（これは強いアルカリです）。さらに、もう一度水をくわえて弱いアルカリを作り、これにあぶらをくわえてにます。かたまり（せっけん）ができたところで、はじめにとった強いアルカリをあぶらの３倍の量だけくわえ、さらににつづけるのです。せっけんがうまくできているかどうかは、なめて調べます。あまい味がしたらアルカリを、ピリッとからかったらあぶらを追加すればよいのです。

　さて、17世紀の後半、せっけんの製造(せいぞう)で、大きな変化がありました。せっけんを作るとき、最後に食塩をくわえると、にじるが上下にわかれて、上にせっけんがあつまることがわかったのです。この方法を「⑤塩析(えんせき)」といいます。これにより、にじるのかすのまざらない、質のよいせっけんができるようになりました。（塩析は、現在(げんざい)でも、実験でせっけんを作るとき、また、一部のせっけん工場でも使われる方法です。）

（津田妍子(つだけんこ)『せんたくのはなし』）

＊１僧院＝キリスト教で、修道(しゅうどう)する人（僧）が共同生活するところ。
＊２木灰＝草木を焼いて作った灰。
＊３アルカリ＝酸(さん)を打ち消す性質(せいしつ)をもつ物質。

問一　――線①「そのなか」とは、何のなかですか。文中から書きぬきなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　——線②「軟せっけん」と③「硬せっけん」のちがいをまとめた次の表の空らんにあてはまることばをそれぞれ書きなさい。

	原　料	かたさ	におい
軟せっけん	木灰と動物のあぶら	(2)	いやなにおいがする
硬せっけん	(1)	かたい	(3)

問三　——線④「原料のアルカリ」とありますが、どのようなものがアルカリとして使われましたか。次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

□□□と□をまぜたものに□をくわえ、とった□□。

問四　——線⑤「塩析」とは、何をする方法ですか。もっともよいものを次のうちから選(えら)び、記号で答えなさい。

ア　時間をかけないでせっけんを作る方法
イ　にじるのかすがまざっていないせっけんを作る方法
ウ　あぶらをにないでせっけんを作る方法
エ　にじるがよくまざったせっけんを作る方法

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　次の(1)〜(3)は、いつごろのことですか。

(1)　おりものの仕上げに使うためのせっけんがさかんに作られるようになった。

(2)　南ヨーロッパで、せっけん職人の組合がつくられていた。

(3)　各地でせっけん作りがさかんになり、ほうぼうの国に輸出された。

問六　この文章を、次の四つの意味段落(だんらく)に分けるとすると、どこで分けられますか。二番目、三番目、四番目の段落の初(はじ)めの四字をそれぞれ書きぬきなさい。

第一段落　むかしながらのせっけん

第二段落　質がよく、高級なせっけん

第三段落　いっぱん的になったせっけん

第四段落　せっけんの製造の大きな変化

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　この文章全体では、どんなことについてのべられていますか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　せっけんの性質
イ　せっけんの作り方
ウ　せっけんの原料
エ　せっけんの発達

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　説明的文章⑤

一題目

問一　おりものを作るのに必要なもの

問二　(1)　(例)特産のオリーブの実からとれるあぶらと、海草を焼いた灰
(2)　(例)やわらかい
(3)　(例)いやなにおいがしない

問三　生石灰・灰・水・あく

問四　イ

問五　(1)　16世紀
(2)　8世紀
(3)　12世紀

問六　〈第二段落〉　一方、南
〈第三段落〉　16世紀に
〈第四段落〉　さて、17

問七　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。